

# ラコフスキー・オシレーターの復活に関するエンジニアへのインタビュー概要

発明家のデニス・ユーリエヴィチ氏が、1世紀以上前にジョージ・ラコフスキーによって開発された伝説的な装置「ラコフスキー・オシレーター」の再現への取り組みについて語ります。

この装置は、自然な生物学的周波数と共鳴することで、健康と細胞間コミュニケーションを促進する生体エネルギー場を放出するように設計されています。

## 主要なポイントと洞察

### 1. 現代の再構築 vs オリジナル装置

- オリジナル装置**：約100年前に発明され、騒々しい火花放電で動作していました。
- 現代版**：トランジスタと3Dモデリングを使用し、静音で効率的な、ユーザーにとって快適な装置となっています。
- 技術向上**：現代の素材と電子機器により、制御性と有効性が向上しました。特に二次アンテナの効率はオリジナルより約75%向上しています。

### 2. ラコフスキー・オシレーターの核心原理

- この装置は、強い磁場や電流を伴う**伝統的な電磁振動を生成しません**。
- 代わりに、生物学的適合性が高く、生物に好意的に受け入れられる**高電圧・極低電流のスカラ場（スカラエネルギー）**を生成します。
- これらの場は、雷雨時に発生する高電圧・低電流の電位のような自然現象に似ており、生物に無害にエネルギーをチャージします。

### 3. スカラ場と生物学的共鳴

- オシレーターは、**細胞周波数との共鳴**という原理に基づいて機能します。

- ラコフスキーは直感的に、光速と導体の周囲を結びつけ、数学的にこれらの周波数を算出しました。
- 各細胞タイプは異なる周波数で共鳴し、細胞間のコミュニケーションを円滑にします。
- 装置はこの自然な共鳴を増幅し、健康な細胞の「声」やエネルギー信号を強化することで、再生と免疫機能をサポートします。

#### 4. 生物学のおよび健康への影響

細胞の共鳴を高めることで、オシレーターは身体が細胞間のバランスの取れたコミュニケーションを回復するのを助け、治癒と再生を促進します。報告されている利点は以下の通りです：

- **免疫系の強化**：不健康な細胞や変異細胞（癌細胞を含む）をより良く認識し、排除できるようになります。
- **アレルギーの軽減**：アレルギー反応や慢性的症状の軽減・解消（デニス氏はアレルギー性咳嗽の消失を経験）。
- **循環の改善**：微小循環と血液の質の向上。
- **活力の向上**：脳機能、記憶力、全体的な活力の増進。深い睡眠と鮮明な夢を見るようになる傾向があります。

#### 5. 安全性と使用方法

- **安全性**：高電圧（約10,000～50,000 V）で動作しますが、電流が極めて低いため、通常の使用条件では安全です。
- **注意点**：アンテナに接触すると集中放電により軽い火傷を負う可能性があるため、直接接触を避け、子供を近づけないようにしてください。
- **セッション**：アンテナ間の距離は1～1.5メートルが推奨されます。通常1回5～10分で、効果は1回の使用後2～3日間持続します。

#### 6. 健康と治癒の哲学

- この装置は「万能薬」ではなく、あくまで「**エネルギー的なアシスタント**」であると強調されています。
- 身体の自然な治癒能力をサポートしますが、食事、ストレス、運動などのライフスタイル要因も依然として重要です。
- 装置は生化学的レベルではなくエネルギー的レベルで作用するため、従来の治療（抗生物質など）と併用しても衝突しません。

## 装置の進化と使用のタイムライン

時期	出来事 / 開発
20世紀初頭	火花隙間を用いたオリジナルのラコフスキー・オシレーターが発明される。
第二次世界大戦期	ラコフスキーが米国へ移住し、装置の特許を取得。
20世紀後半	電子機器の進歩により、現代的な再解釈が可能になる。
21世紀初頭	デニス・シェベル氏がオリジナルの特許と現代技術を用いて装置を再構築。
現在	実証された肯定的な効果を持つ、エネルギー的な健康アシスタントとして使用されている。

## 技術比較：オリジナル vs 現代版装置

特徴	オリジナル（ラコフスキー）	現代版（シェベル・バージョン）
構造	火花隙間、騒音あり、大きな接点	トランジスタ、静音、3Dプリントされたプラスチック部品
アンテナ構成	2つのコイル、非効率な二次アンテナ	改良されたコイル配置、効率が75%向上
動作	高電圧の火花、大きな騒音	高電圧・低電流、静音動作
素材	20世紀初頭のコンポーネント	現代の素材、精密工学
ユーザー体験	騒音と火花により不快感がある	快適で、瞑想状態を促す
安全性	火花によるリスクが比較的高い	より安全で、自動過負荷保護機能を搭載

---

インタビュー概要 - プロフェッショナル日本語訳